

日時 平成28年4月17日（日） 11：30～

場所 県庁新館8階 職員研修室

1 地震の状況

(別途気象台から報告)

2 被害の状況

死者40人。

行方不明者が南阿蘇村で11人。重傷者202人。軽傷者835人。

避難所数855カ所。避難者数183,882人。

様々な県から48人の派遣を頂いている。その他申し出も多数あっている。

消防、警察、海上保安庁、自衛隊からたくさんの方々の救助・救出をいただいている。

3 県等の対応状況

(総務部)

各県から人的支援を頂き、また、特に消防、自衛隊、警察におかれても県域を越えて御協力頂きありがとうございます。

それに繋がる次の復旧・復興に向けて、九州山口災害応援協定に基づき本部長である大分県知事が全体を構成する形で九州各県から、事務職員や技術職員の支援を始めたいと思っている。ついては、本県では、県庁、市町村からのニーズ聴取を本日から始めている。各部局では、ニーズを積極的に総務部に上げていただきたい。さらに、足りないところは、全国知事会から連携して対応して頂くことになっている。

県庁舎内での避難者の状況について、当初、480名程度であった方々が、今、200名ちょっとという形になっている。

県立大学では、1,400名の避難される方を受け入れ、学生が自ら炊き出しをするなどしている。

私立学校における避難の受入についても、2校さらに追加し9校体制になっている。

私立の幼稚園等においても安全の確認が取れたところから、再開、開園を始めており、また、正式な開園でなくても自由登園という形で親御様の負担を少しでも軽くする方法で前向きに再開に向け動きを始めている。

(企画振興部)

交通に関して、熊本電鉄等が順次運行開始のところが出てきている。JRについても復旧に全力をあげられているが、新幹線の脱線等で技術的に難しいところがあって、もう少し時間がかかる模様。

航空機関係で、空港ターミナルビルで建物被害があるので、運航が停止しているが、どんな形であれば運航可能なのかといったことについて相談が進んでいる。

(健康福祉部)

DMATについて、243チームということで大幅に増員していただいている。そこ

での活動について、熊本市内の倒壊の恐れのある病院の入院患者を移すための支援や人工透析患者等の医療支援等を行っていただいている。DMATの活動拠点について、県内を3つに分け、熊本赤十字病院の拠点は熊本市以南の地域の医療支援、川口病院については県北、阿蘇については、交通網等の問題があり、大分県のDMAT活動拠点が対応していただくこととしている。

また、報道されている国におけるプッシュ型支援の受け入れ体制について、本日、健康福祉部、商工観光労働部、内閣府、日通さん、ヤマト運輸さんと協議しているところ。

避難所の住民の方の健康、衛生状況、メンタル面のケアも必要である。現在も保健師等を派遣しているが、九州各県からも応援の申し出もあっているので、すぐに対応していきたい。

(環境生活部)

水道施設の状況について、自衛隊の給水車を始め、福岡市、久留米市、唐津市等から給水車の派遣を決めて頂いている。

熊本市で漏水調査中ということであるが、今朝から健軍地域で試験的に水道給水を開始した。順次、地域ごとに復旧次第、給水の方向ということで鋭意、漏水調査、保守をしながら対応をされている。

し尿、ゴミ処理施設について、地震の影響でかなり破損しているの、こうしたものに対応しながら災害廃棄物処理に対応していく。

国の災害廃棄物処理支援チームD. Waste-Net が派遣されており、益城町等に入って助言を頂いている。

(商工観光労働部)

水でいうと、30万本のペットボトルを概ね運搬済み。このシステムは、そろそろ限界、今、国の方からの90万食の分が既にあるので、これをどう運ぶかということについて今まで協議中だったが、これをしっかりやりたい。

(農林水産部)

農業用ため池の大切畑ダムについて、現在、水位低下を実施し、満水位からマイナス最大4mまで水位が低下したため、かなり危険は減ったものと考えている。

山腹崩壊の状況について、南阿蘇では、山口旅館周辺、京都大学火山研究センターがある山で山腹崩壊が起きている。ペンション火の鳥の上部で山腹崩壊が発生している。

酪農家の生乳廃棄について、本日中にも工場等が復旧する見込み、最小限の被害に抑えられる見込み。

(土木部)

建設業協会等と一緒に復旧に頑張っているが、なかなか道路の方が、どちらかというと増える方が多くて、現状では84カ所の全止め、片側通行止め6カ所という状況。

(教育庁)

今回の被災者のそれぞれの学校での受け入れ状況について、特別支援学校17校、高校54校について今の状況について掲げている。食料、水、トイレ、毛布等について、○とか△、×とかあるが、○は足りている、△は不十分、×はないという状況であったので、これについては、熊本市と話をし、対応していただくよう、昨日の夜の時点で

話ができている。

(県警本部)

現在、全国32の都府県警察から、概ね1100人の応援を頂いて捜索にあたっている。南阿蘇の方で、数名、行方不明者を把握しているので、重点的に捜索を行っている。

県外から、様々な支援物資の搬入が行われているが、その中で九州自動車道については、植木インター以南が通行できない状況になっているので、植木インターを降りるところで渋滞が発生している。緊急車両、支援物資を運んだ車両、一般車両の選別がされずに滞留している状況にあるので、現場に警察官を配置して、優先度に応じて、選別して植木インターに下す措置をとり始めている。

植木インター以南は、道路管理者の方で橋などの安全点検が行われている状況であるので、まだ、緊急車両も通っていない。早めに安全点検をお願いしたい。

#### 4 国等の対応状況

(内閣府)

今、避難所に多くの方々がいらっしゃるが、水と食料をなるべく早く届けるように総理からも強く指示を受けている。物資の輸送については、当初、熊本県の方から要請を受け、物資の手配をしてきたが、国として、3日分の物資については輸送する必要があるとの判断のもと、準備を進めている。一部については、輸送が開始されており、本日中に物資が一部届くと聞いている。これらの物資がなるべく早く避難所まで届くよう関係者一同協力して対応していきたい。

(消防庁)

冒頭での死者数の報告について、県警の数字で41人、市町村からの取りまとめの数字が40人という数字があったが、市町村取りまとめは9時30分時点であり、県警の方は会議が始まる直前まで取りまとめていただいたものであるため、齟齬はない。

災害対応体制については、合計約550隊、約2,000名での対応を行っている。活動状況については、火災7件、救助については167名、救急388件となっている。

今、熊本市内で断水になっており、消火活動に支障を来す恐れがあるので、熊本市消防局において対応いただいているところであるが、緊急消防援助隊として、神戸市消防局、愛媛市消防局から、海から最大2キロぐらい水を送水できるスーパーポンパー2台を設置して、市内における火災に対応している。

※ 会議終了時に、スーパーポンパーについて、神戸と愛媛市から持ってきたと説明したことについて、大阪市消防局と堺市消防局と枚方寝屋川消防組合消防本部からの間違いと訂正あり。

(自衛隊)

本日の態勢は資料のとおり。記載が漏れているが、航空機のほかへり約70機の待機態勢をとっている。活動の種類としては、人命救助を第一義とし、併せて、生活支援、物資輸送支援等を行っている。

(警察庁)

本日から、九州各県の自動車警ら部隊を出動させている。

(气象台)

地震の概要について、前回報告と違うのは、4月15日0時3分発生 of 震度6強について、取り上げていなかったのが今回記載している。

速報値、暫定値、確定値というのがあり、速報値というのは、いわゆる津波予報をするためにざっくりと決めるもので、暫定値は、半日から1日程度で決めるもので現在暫定値になっている。確定値は、最終的に決めるもの。

現在、余震が410回起きている。引き続き6弱程度の余震の可能性があるので注意していただきたい。

気象について、昨日、21時から6時までの間で、五木で46ミリ、阿蘇山で40ミリ、予想より幸いに少なかった。

予報では、今日は晴れ。明日、昼前、所により雨と予報しているが、降水量についてはそれほど多くはならないと考えている。

阿蘇山について、昨日、8時30分に小規模な噴火。その後、小規模な噴火が続いていたが、昨日夕方、18時15分で一旦停止し、今、噴火は継続していない。

(国土交通省)

道路の通行止め関係で、国道57号の立野地区については依然通行止めが続いているが、その箇所以外の国道3号、57号については、全て通行可となっている。

九州自動車道について、昨日、植木から益城熊本空港間は緊急車両は通行可と伝えていたが、今朝から、緊急車両も通行不可となっている。原因、何時頃通行可能になるかは確認してご報告したい。

(海上保安本部)

巡視船艇、航空機による即応体制としている。航空機については4機即応待機としているので、搬送等の要望があれば対応したい。

三角港、熊本港において巡視船による給水の活動を始めている。その他、入浴、食事の提供等の要望があれば、要請をお願いしたい。

(九州電力)

停電の状況について、11時現在の最新の情報が入っているので、それに基づいて報告したい。11時現在で7万3千3百戸程度が停電。復旧の見込みについて、比較的被害の小さかったところについては、4月17日夜遅くまでに復旧の見込み。

阿蘇の方に送っている送電線の鉄塔が使用不可となっているので、現在、一宮、高森地区において、全国の電力会社から発電機車を配置し、発電機車による発電を開始する予定。一部、開始している。

(熊本市上下水道局)

現在、熊本市の上水道は、国、県との連携のもと、4月18日中の100%復旧を目標に懸命に努力を進めている。現在、60%程度復旧している。

(西部ガス)

熊本地区の10万5千戸のお客様に対し供給停止になっている。復旧戸数は、現在、ゼロ。復旧の見込みは、もうしばらくして、お知らせできる状態と考えている。

(LPガス)

県内50万世帯お客様がいらっしゃって、販売店が550社あり、被災している販売店もあるが、被害のない地域は、メーターによって遮断しているものが多数であるので、

お客様自身でメーターを確認して復旧できる状態となっている。販売店が被災している所は、避難所から順次回って対応しているところ。

#### 5 政府現地対策本部長の発言

(松本副大臣)

LPガスさん、被災者本人が直せるというものなのか。

(LPガス)

メーターで止まっているものは、お客様が、復旧ボタンを押して直せるものが多数ある。

(松本副大臣)

多数とはどれくらいなのか。8割ぐらいはありそうか。

(LPガス)

数字的にははっきり分からない。

(松本副大臣)

できるだけ確認を急いで欲しい。

それから、西部ガスさん、見通しが数日かかるということだが、オーダーとしては、1カ月のものなのか、2、3週間で対応できるものなのか、そこに暮らしている方がいつからガスが使えるようになりそうだな、というイメージが湧くような方向はまだ示せないのか。

(西部ガス)

4月中の全戸復旧を目標として取り組んでいる。

また、この地区に住んでいる方が、どのくらいで、ということについては、前日くらいに分かるので、「明日、この地域をガスを空けに参ります。」というのを、広報等を通じてお知らせしたい。

(松本副大臣)

前日ではなく、この地域はいつ頃回るというのを、この会議で計画的に示して欲しい。それが長くかかるのであれば、全国から、いろんなガス会社からの応援でも、人手は出させるから。

(西部ガス)

全国のガス会社から、明日、本体が到着予定。明後日から復旧作業開始予定。

(松本副大臣)

被災された方は、電気、水道、ガスが復旧出来ないために家に帰れない。帰ってもお湯一つ沸かせない。外で食べ物を買わないと食べるものがない状態。ガスは命なのだから、復旧見通しをもう少し分かりやすく示してほしい。

(西部ガス)

ご報告の仕方を検討させていただきたい。

(松本副大臣)

よろしくお願ひしたい。

それから、食料について、総理大臣が、今日中には被災地のそれぞれの避難所に届けますという記者会見をやっていた。また、官房長官から今日70万食届けると電話があ

った。今日の夜、どこまで避難所に届けられるかが一番の課題になってくると思う。そこで、3～4か所に国から届くと思うが、それが何時に届くかを、進藤参事官、大至急、民間の輸送会社に依頼をしているはずなので、何時頃届けますというのを確認して、集配所からは県が運ぶということなのか。

(健康福祉部)

今、正にそのことについて、関係部局と業者等で打合せをしていて、例えば、直接、国から業者を通じて市町村にもって行った方がスピーディーと思うので、そういうやり方も含めて早急に話し合いをしている。

(松本副大臣)

早急にまとめてもらって、今日、数カ所の避難所にしか届かなかつたりすると大変なことになるので、8割、7割方届くようになるよう全力を上げていただきたい。

また、例えば、県庁で手作業で重い水を運んでいた。フォークリフトを民間に手配して欲しい。明日から、民間の会社が配送をやるのであれば、この会議に出るよう言って欲しい。

それから、官邸では、ガソリンを集中的に届けることになっている。実際にスタンドに届いたかを確認して報告して欲しい。

官房長官によると、コンビニ各社の社長を集め、とにかく熊本に集中的に食料を出すようお願いしたとのことであったので、明日もコンビニが開いていなかったらきちっと返して欲しい。

トイレについて、どこに幾つ足りない、トータルで幾つ足りないという報告をして欲しい。ちゃんと対応するので、できるだけ早くお願いしたい。今朝、自衛隊にお願いをし、島尻大臣が調査したところ、九州に少なくとも100個以上の簡易トイレがあるということであった。

想像力を働かせて、これは足りなくなる可能性があるというものを検討し、まとめて遠慮なく言って欲しい。

## 6 県災害対策本部長の発言

(蒲島知事)

これまでの度重なる地震により、既に40名の方々の尊い人命が失われており、御家族のことを思うと言葉が無い。行方不明の方も11名おられる。引き続き人命救助を最優先に、全力を尽くしていただきたい。

また、14日の地震発生から60時間以上が経過し、被災者の方々の不安はますます大きくなっていることと思う。大きな余震を警戒しつつ、被災者の支援にも全力を尽くしていただきたい。

昨夜は、大雨洪水などの警報が発令された。これまで以上に地盤が緩んでいる状況にあることを念頭に、新たな被害が発生していないか確認をお願いしたい。

また、現在、855箇所の避難所で、約18万人の方々が避難生活を送っておられる。県としても、内閣府や自衛隊をはじめとする国の機関や他の自治体、さらには民間の御支援を受け、水、食料、毛布などをお届けしている。

このような厳しい状況の中、国主導により、避難者10万人分の水、食料、さらには

紙おむつやトイレトペーパーが届けられている。また、熊本市からは、明日中には上水道が100%復旧できるという、とても明るいニュースも届けられている。

このような取組みを通じて、行政、民間、さらには国と地方の垣根を越え、一丸となって今回の未曾有の災害を乗り越えて参りたいと思う。

県民の方々も心をつなげて助け合い、一日も早い応急復旧に御協力をお願いしたい。

(以 上)